

投資で資産を10年で2倍にする
つぶれない会社の見分け方①

AFP

鈴木 英之（日本FP協会認定）

レジュメ

1.決算書とは

- ・ 決算短信
- ・ 有価証券報告書

2.決算に含まれる代表的な表

- ・ 損益計算書 (P/L)
- ・ 貸借対照表 (B/S)
- ・ キャッシュフロー計算書 (C/F)

3.財務 3 表と関連

4.損益計算書 (P/L) とは

決算書とは

3ヶ月毎、1年毎の企業の成績書

決算短信

上場企業が決算発表時に証券取引所に提出する業績の速報

有価証券報告書

上場企業が金融庁に提出を義務付けられている書類

決算書を見ることで出来る事

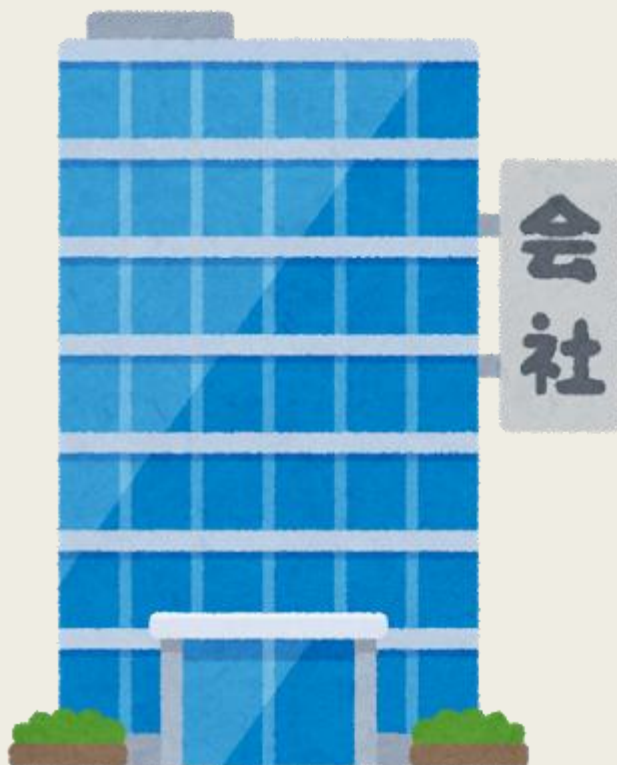
どちらの会社が優れているでしょう？

A社

売上：5億

営業利益：4億

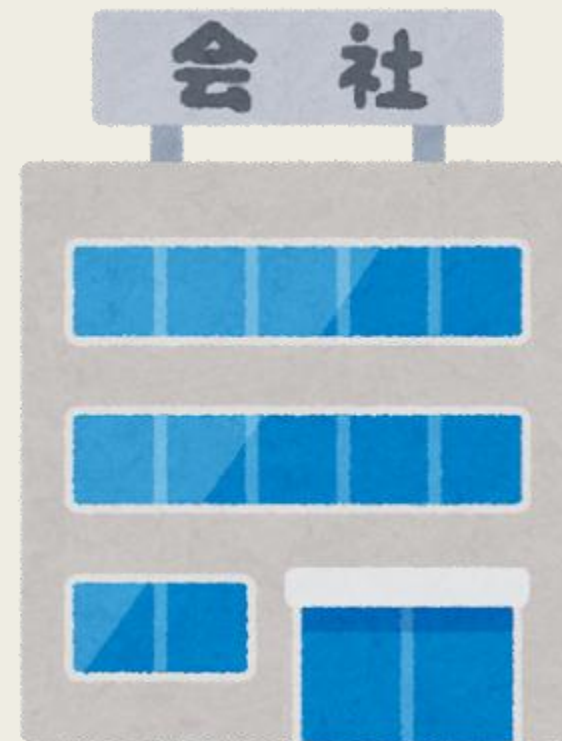
経常利益：1億



売上：10億

営業利益：7億

経常利益：1億



決算書(財務諸表)の代表的な3表

☒ 損益計算書 (P/L)

【Profit & Loss statement】

1年間でどれだけ儲かったか、損したかを表す

☒ 貸借対照表 (B/S)

【Balance Sheet】

どうやっておカネを集めて何に使ったのかの決算日時点の状況を表す

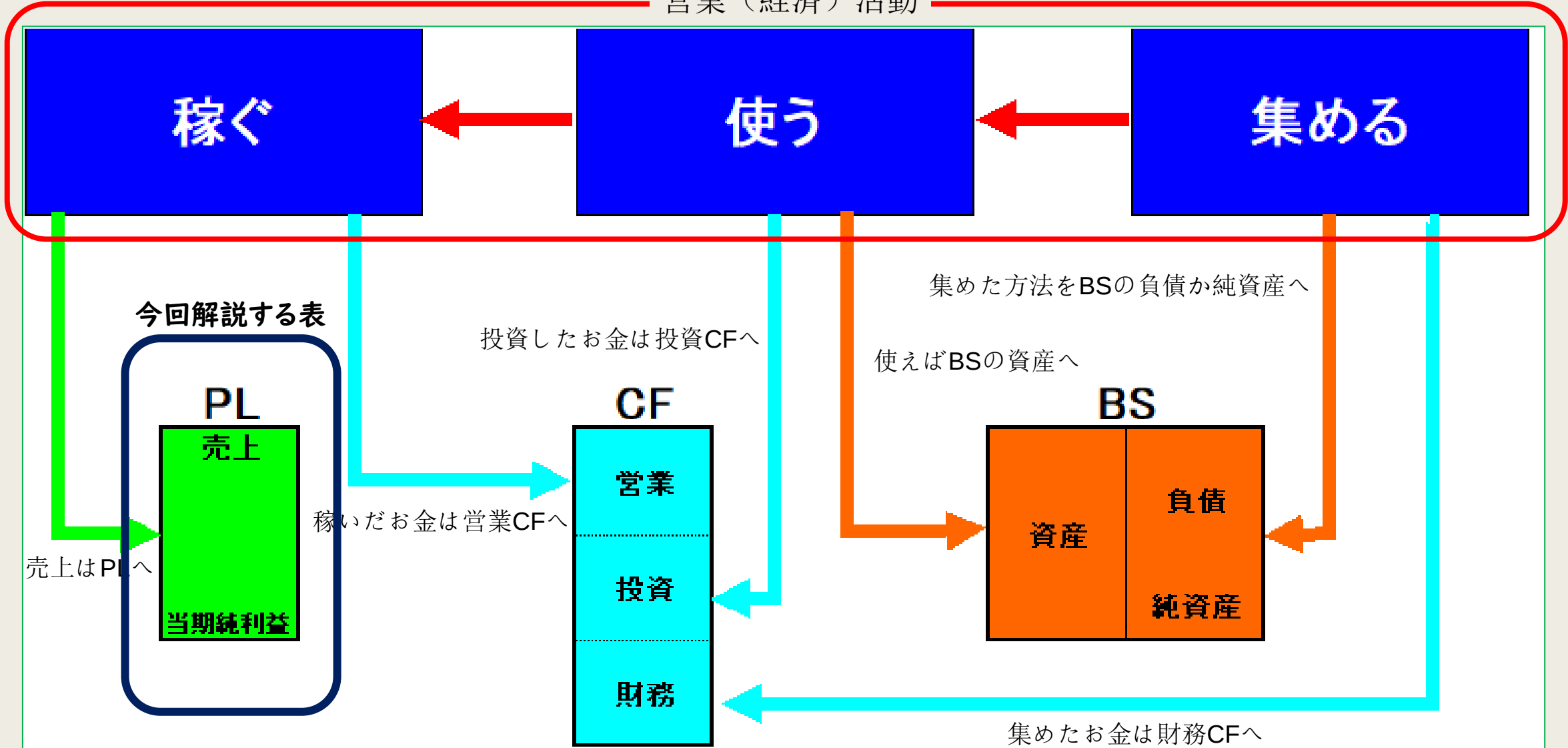
☒ キャッシュフロー計算書 (C/F)

【Cash Flow statement】

1年間でキャッシュ（現金）残高がどれだけ増えたか減ったかを表す

財務 3 表と関連図

営業（経済）活動



財務 3 表①

☒ 損益計算書 (P/L)

売上から人件費などの費用を引いて、
1年間でどれだけ儲かったか、損したかを表す

- 売上高から会社の稼ぐ力が分かる
- 売上高と売上原価から原価率を探る
- 営業利益からコスト要因を探す
- 経常利益から本業以外の力を見つける
- 当期純利益から成長を判断する

損益計算書（P/L）

㈱オリエンタルランド（4661）2021年3月期 第2四半期決算短信

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第2四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2020年4月1日 至 2020年9月30日）
売上高	248,428	59,149
売上原価	153,287	※1 62,604
売上総利益又は売上総損失（△）	95,140	△3,455
販売費及び一般管理費	34,201	※1 20,723
営業利益又は営業損失（△）	60,939	△24,178
営業外収益		
受取利息	83	28
受取配当金	444	340
受取保険金・保険配当金	359	310
その他	737	486
営業外収益合計	1,623	1,165
営業外費用		
支払利息	146	129
持分法による投資損失	6	282
支払手数料	266	399
減価償却費	—	399
その他	65	520
営業外費用合計	485	1,731
経常利益又は経常損失（△）	62,078	△24,745
特別損失		
臨時休園による損失	—	※1, ※2 13,333
特別損失合計	—	13,333
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	62,078	△38,078
法人税、住民税及び事業税	17,422	319
法人税等調整額	1,571	△8,301
法人税等合計	18,993	△7,982
四半期純利益又は四半期純損失（△）	43,084	△30,095
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	43,084	△30,095

損益計算書（P/L）の内容

■売上高：1年間で幾ら売ったのか

■売上原価：材料や仕入れの費用

■売上総利益又は売上総損失：粗利。売上高から売上原価を引いた利益

■販売費および一般管理費：広告宣伝費や営業のための人件費など
（人事や総務等の管理部門の社員の給料など）

■営業利益又は営業損失：売上総利益から販管費を引いた本業の利益

■営業外利益：本業以外の利益

■営業外費用：本業以外の費用

■経常利益又は経常損失：営業利益に営業外の損益を足し引きした利益

■特別利益：想定外の一時的な利益

■特別損失：想定外の一時的な損失

■税引き前当期純利益：経常利益に想定外の損益を足し引きした利益

■法人税など税金：納税額

■当期純利益：税引き前当期純利益から税金を引いて最後に残った利益

第2部

資産運用の種類について

- 紙の資産
- 現物の資産

貯金/預金（紙の資産）

■ 銀行等におカネを預ける

メリット

- ① おカネを預ければ、年0.001%～0.02%の利息がもらえる
- ② 預けている会社（銀行等）がつぶれない限り
お金が無くなることがない
（1000万円までは国が補償（ペイオフ））

デメリット

- ① もらえる利息がとても少ない

株式（紙の資産）

■ 会社の株を買ってその会社を応援する
メリット

- ① 業績がよければ配当金を受け取れる
（インカムゲイン）
- ② 値上がり後売れば利益が得られる
（キャピタルゲイン）

デメリット

- ① 会社が倒産すれば株は価値を失う
- ② 業績が悪くなると株の価値が下がる

債券（紙の資産）

■ 国や企業にお金を貸す

（国の場合は国債、企業の場合は社債）

メリット

①利息（クーポン）を受け取れる

デメリット

①発行体の状態によってはおカネが返ってこない

投資信託（紙の資産）

■ 投資のプロを信じておカネ委託する

メリット

①小額(1000円～) から始めることができる

②一度に多くの資産に投資が出来る

デメリット

①手数料がかかる

②商品数が多すぎて選ぶのが大変

ETF（紙の資産）

■ 取引所で購入できる投資信託

メリット

- ①市場で取引が出来る（流動性高い）
- ②一度に多くの資産に投資が出来る
- ③投資信託より手数料が安い

デメリット

- ①市場価値で金額が変わってしまう
- ②商品数が多すぎて選ぶのが大変

外貨建て商品（紙の資産）

■ 外貨で購入する資産（預金・株式・ETFなど）

メリット

①日本にない魅力的な商品がある

デメリット

①為替に左右される

②商品の情報が英語

コモディティへの投資（現物の資産）

■ 金やプラチナに投資する

メリット

- ①インフレに強い
- ②紙の資産と相関性が少ない

デメリット

- ①利子や配当がない

不動産投資（現物の資産）

■ 不動産に投資する

メリット

- ①インフレに強い
- ②資産価値の変動が少ない

デメリット

- ①流動性が悪い（換金がすぐにできない）
- ②投資するのに多額のお金が必要